



一般財団法人光産業技術振興協会
副理事長・専務理事 小谷 泰久

新年、明けましておめでとうございます。

さて、昨年来、政府が提唱する「超スマート社会（Society 5.0）」の実現のための重要な柱として、電子・情報分野においては「第4次産業革命」と呼ばれる人工知能、IoT、ビッグデータなど、自動車分野においては自動運転など、革新的技術の開発とその活用による新しいビジネスモデルと商品・サービスの創出が重要とされています。

一方、これらの分野に共通する課題として、大量データの収集、伝送および処理等に対応した新しい技術開発が求められています。光技術は、例えば、データ収集においてはイメージセンサ、高速カメラ等の各種センサ、データ伝送では高速・大容量の光情報通信システム、情報処理においては高速・低消費電力の光電子集積回路等の重要なキーテクノロジーを多く含んでいます。

当協会では、これらのキーテクノロジーを含め、光産業技術に関する産学官の連携の要として、光技術に関する研究開発戦略、事業化戦略の策定を推進するとともに、関係機関への提案を通して、イノベーションを推進し、我が国産業の発展に貢献してまいりました。

昨年は、自動運転などに活用されるカメラ技術、測距技術、車載ネットワーク、情報処理技術などに関連する光技術を議論する場として「自動車・モビリティフォトニクス研究会」を設立し、現在も活発な議論が行われています。さらには、「AI・IoT時代の基盤としての光技術戦略策定委員会」を設置し、IoTに必要な光通信システム、光センサ、AI処理システムに必要な光デバイス、光スイッチなど広範な領域における光技術の開発ビジョンの作成を行いました。2月7日（水）に開催する光産業技術シンポジウムではこのビジョンについて発表する予定です。

一方、情報処理フォトニクス・ロードマップに基づき立案され、技術研究組合光電子融合基盤技術研究所で国家プロジェクトとして推進されている「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システムプロジェクト」も順調に研究開発が進み、第2期までの成果について高い評価を受けるとともに、新会社の設立、第3期プロジェクトの開始と新たな局面を迎えました。

また、上記の分野に関連した車載ネットワークや光コネクタ、光スイッチなどの標準についてIEC、ISO、各種フォーラム等の場での国際標準化を中心とした活動を積極的に展開してまいりました。

本年も引き続き将来の光産業の発展のために、プロジェクト立案に向けてのF S、技術戦略策定、光産業・光技術動向等各種調査、標準化事業や基準認証研究開発、シンポジウムや研究会などの普及啓発事業を実施して参ります。より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご発展、ご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。